

目的 寝たきり病人の寝巻きに関し多くの問題が示的されているので最も適切な寝巻を医療に携さわっている人と病人を対象に調査これに基づいて材料、形態縫製など本研究はそれらの問題解決し医療に適切な寝巻について研究したものである

方法 教ヶ所の医療に携さわる医師看護婦の協力をえて実態調査し材料、形態、縫製方法を考察し動かせない病人に着用させて研究したものである

① シーツ交換の要領で着用出来る様肩から袖口までオープンに寝巻を一枚に広げ病人を其の上に履かせ肩袖口まで釦又はマジックテープ止める前は打合せて結び履たま、着用させるこの構成方法は注射点滴の場合非常に便利である② 背縫が床づれを起す原因となるので背縫なしにし他の縫目も出来るだけ少く洗濯の關係上縫代はくるみ縫又は袋縫にする③ 便器を当てる時下半身の汚れが多く従つて洗濯の回数も多くなるのでワンピース形式の場合下半身を二枚仕立てにして取はづし仕立又セパレート式は上下別々に仕立てる④ 前身頃上下大小の貼付ポケットをつけると便利である⑤ 布地は明るい色調のものを選び無地の場合は配色の良いいテープ刺繍など服飾手芸を洗濯に差支えない様取入れ少しでも病人が安静に療養生活を送られる様配慮デザイン構成した⑥ 材料冬・綿綾織片面ネル・厚地ガーセ、タオル 夏・厚地ガーセ、サワカー、ちぢみ織 綿は熱の不良導体であるので保温と防暑によい水分をよく吸い込む吸つた水分を早く蒸発し吸われた水分が蒸発する時布から気化潜熱をうばうので寝巻に最適である

結果 病人も動かさずに楽に着用させられるので特に外科 内科 産婦人科に好評えた